タイトル：2024 年度 教育セミナー（第 20 回）
日時：2024 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

「マグリブ知識人のモリスコ像—ムハンマド・アンダルスィーにまつわる語りを中心に—」
梅津尚生（北海道大学文学院）

この度の「中東☆イスラーム教育セミナー」では、河野先生をはじめとする講師の先生方、近藤先生をはじめとする東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、そして運営スタッフの千葉様に大変お世話になりました。まずこの場をお借りして、御礼申し上げます。

普段は学生が多く集まる首都圏から遠く離れた札幌にて、専門の近い歴史学を専門とする同期や先輩方に囲まれている私は、本セミナーで、全国各地から集まったさまざまな分野や地域の研究を行なう同世代の大学院生との交流の機会に恵まれました。またそれだけではなく、研究書や雑誌などで何度もお名前を拝見させていただいていた、幅広い専門分野にまたがる先生方に自分の研究を報告するという、この上なく貴重な機会も与えていただくことができました。

報告の内容は、卒業論文を基にしながら、修士論文の方向性も含めた内容とさせていただきました。報告の後には、30 分も質疑の時間を与えていただき、さまざまなコメントをいただくことができました。学生からの質問は、報告に際して内容から省いた基礎的な知識に関するものが多く、報告にあたっての内容の吟味が不十分であったことを自覚させられました。先生方からのコメントでは、自分の研究が持つ弱点や乗り越えなければならない課題をご指摘いただくとともに、今後論点を絞っていく際に留意すべき事項、そして自分が今まで考えてもなかったような深化の方向性を教えていただくことができました。また何よりも、自分と同じ地域を専門とする先生や院生の先輩方とお話しする中ではなかなか得られない、他の地域や集団の事例も知ることができ、セミナー後に自分の研究を見返す中で、新たな論点を見出すこともできました。

先生方のセミナーや自分以外の学生の報告、そしてそれに伴う質疑応答をお聞きする中では、どのようなことが研究対象となるのか、先行研究からどのような論点を導いているのか、史料のどのような点に着目しているのかといった、自分の研究を相対化することができるポイントを多く得ることができま

した。特に、現代イスラーム学や政治学といった、自分が専門とする歴史学以外のディシプリンの方々のセミナー講義は非常に刺激になりました。

研究室の先輩から修士 1 年での本セミナー参加を勧められた際には、私は卒業論文の内容以外に新たな論点を持たないまま参加することに大きな不安を感じていましたが、それでも、この時期に参加することができて非常に為になったと感じています。2 年しかない修士課程の既に半年が経過したこのタイミングで、修士論文の方向性を大きく決めることができたからです。「また聞かせてほしい」と仰ってくださった同世代の学生や講師の先生方の期待に応えるためにも、残りの 1 年半の修士課程で、さらに研究を進めていきます。そして数年後、次は研究セミナーの方で、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所を、再度訪問したいと思います。